資料2

第4回市民参加推進会議の意見を反映させた提言項目について

・ヒアリングにより調査票だけではわからなかったことが理解でき、正確な評価に結びついた。
・ヒアリングは試行で行ったが、1 回で終わらず今後も続けてほしい。
・ヒアリングでパブリックコメントがない理由を確認したい。
・もう少し時間をかけて評価しなければならないと思う。中間評価の位置づけが終了評価に比べて不明確な部分があるので中間評価を行わず、終了評価を全部ヒアリングして評価するとよいのではないか。
・中間評価で事業の途中で答申を出す機会があれば事業内容に反映させることができるのではないか。

→ **提言1**

職員ヒアリングを全対象事業へ拡大実施
－実質的な評価と事業の説明責任－

→ **提言2**

中間評価を廃止し、終了評価に一本化
－審議時間の効率的･効果的活用－

・市民参加の手法を行う前に事前の研修をしっかりやっておく必要がある。
・市民参加対象事業の基準・水準を事前研修で理解しておくことが重要である。
・きちんとした心構えで考えながら事業に取り組むベースが必要である。

→ **提言3**

市民参加事業担当職員に対する事前研修の実施
－市民参加の理解に基づく事業推進－

・市は積極的に情報を提供し、意見の把握を行わなければならないが、パブリックコメントの意見がなかったり、意見の把握ができていなかったりする。
・アンケート結果の公表が関心をもつきっかけや意見につながってくる。
・パブリックコメントへの意見提出がないことに対する対策が必要である。
・パブリックコメントがなかった場合は、アンケートやヒアリングを行うなどの工夫が必要である。

→ **提言4**

市民への情報発信と情報の共有化
－パブリックコメントへの意見提出につながる参加意識の醸成－

・巻末資料として過去 10 年ほどの審議内容や提言内容を参考資料として添付するとよい。

→ **巻末資料として掲載**

・委員会や審議委員の出席率の向上を図る必要がある。
・調査票に審議会の男女比の割合、ホームページアクセス件数等を加える。

→ 提言項目としては直接盛り込まないが、重要な意見として今後の改善に向けて取り組んでいくものとする。

・市民参加対象事業の選定を明確化させる必要がある。

→ 「市民参加条例の検証・見直しに関すること」において任期内に検討する。